



港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan kindergarten

# 11月園だより

令和元年 10月31日  
October, 31, 2019  
園長 小久保 篤子  
Principal  
Tokuko Kokubo



## 心と心が通い合うということ

子どもたちのそばで過ごしていると、子どもたちの温かい優しさに触れたり、仕草にハッとしたり、つぶやきに深く考えさせられたりすることがあります。私は、子どもたちの心の動きを感じて「今、あなたと私、同じ気持ちだったね」と言葉を交わさなくとも思いが通い合う瞬間、とても幸せなうれしい気持ちになります。

それは、友達を応援しているとき。友達を慰めているとき。

お客は誰もいないのに、子ども同士で積み木の舞台を作って音楽に合わせて、ただただ踊っているとき。

「きれい」と言うとき「きれいだね」と色の砂を見つめているとき。

職員室の扉を気づかれないように閉めたのに、ゆっくりと扉が動いて、数名の幼児が「どうして閉めるのよお」と顔を覗かせるとき。

してはいけないと分かっている、ちらちらと大人を見るとき、そして、してはいけないことをしたときに真剣な表情で叱っていると、真剣な表情で返してくるとき。

遊びの途中で急に雨が降ってきて、笑いながらみんなで保育室に逃げ込んだとき。

それは、「センセー、せんせい、先生！」と頼るべき他者を信頼して呼ぶ姿。

みんなで歌を歌う、みんなで絵本を見る、みんなで手遊びをする…幼稚園は、たくさんの共通体験の詰まった学びの宝庫です。

保育では、よく「ありのままの子どもをみることが大切」と言われます。しかし、遊びを見ているだけでは見えてはきません。子どもたちが見ている世界を、その子どもの側から一緒に見て共有すること、行動を共有した結果、心が通い合うことで子どもの姿が見えてくるのです。南山では、小学生・中学生、高校生や地域の方、様々な人との関わりの機会があります。幼児期は、人への信頼感、困ったり失敗したりしても必ず誰か助けしてくれる人がいるという安心感をもてるようにしていくことが大切です。

友達と一緒に遊ぶのが楽しい4歳児。心が喜んでいると体も弾みます。



小学生に親しむ5歳児。教えてもらってできたことを喜んでいきます。



お話を聞かせてもらい、先生や友達とイメージや言葉を共有しています。



